

八重山歴史研究会報

竹富島の「ことわざ」

飯田 泰彦

1 「ことわざ」の定義

ことわざは暮らしのなかで処世の知恵や教訓を伝えてくれる。それが島の言葉で表現されたとき、親しみ深く島人の心に響くことだろう。

ところで、『日本国語大辞典』に「ことわざ」は「昔から世間に広く言いならわされてきたことばで、教訓や風刺などを含んだ短句、諺語」とあるが、宮良當壯は「俚諺を蒐集するに当たつて、先づ第一に困難を覚えることは、俚諺の本義から必然的に生ずる範囲問題である。即ち俚諺の語意を広義に解するか、或は狭義に解するかに依つて、その採択の範囲が決定する訳であるから、先づ之を明かならしめることが必要であると思ふ」（「八重山の俚諺」『宮良當壯全集12』（第一書房））といっている。

第 56 号

編集・発行 八重山歴史研究会
発行日 二〇〇九年一月二四日
事務局・会計 島袋（市史編集課） 〇八二―一二五二
題字 波名城泰雄氏

また、柳田国男は「物をいう技術」、つまり言ことの技わざととらえている（「ことわざの話」）。このことに注目し、本稿では竹富島のことわざを、慣用句としての比喻も含めて、広義に解して収集することを目的とする。

2 竹富島のことわざのテキスト

竹富島のことわざを収録したテキストとして主に次の六つの資料がある。

- (1) 琉球大学民俗研究クラブ『沖縄民俗―五周年記念号―第10号』（一九六五年・琉球大学民俗研究クラブ）
- (2) 山城善三・上勢頭亨『おきなわのふるさと竹富島』（一九七一年・竹富公民館）
- (3) 崎山毅『蠅螂の斧』（一九七二年・錦友堂写植）
- (4) 大真太郎『竹富島の土俗』（一九七四年・日本ジャーナリズム出版社）
- (5) 上勢頭亨『竹富島誌 民話・民俗篇』（一九七六年・

(6) 辻弘『竹富島方言集』(一九九一年・八島印刷)

それぞれに収録されていることわざの句数を次に示す。

- (1)は「俚諺」として四五句、(2)は「俚諺」として一四〇句、(3)は「竹富ことわざ集」に一四〇句が収録され、(4)は「ことわざ」として五四句、(5)は「第二節 俚諺」に一四〇句、「第三節 気象占い」に「天氣の俚諺」として一二句、また別項目に「天氣の俚諺(植物によるもの)」として九句、「天氣の俚諺(動物によるもの)」として一三句、(6)は「比喩」として二二句、「俚諺」として八三句が収録されている。

これらを整理して「竹富島のことわざ一覽表」を作成した。重複することわざについては「出典・備考」欄に示した。そのとき(1)を「民俗」、(3)を「蠶螂」、(4)を「土俗」、(5)を「島誌」、(6)の「比喩」を「比喩」、「俚諺」を「俚諺」と略した。ただし、今回は(2)、(5)の「気象占い」「天氣の俚諺」「天氣の俚諺(植物によるもの)」「天氣の俚諺(動物によるもの)」を、表に反映できなかったことを予め断っておく。

尚、作表にあたり、古堅節氏(一九二六年一月一四日生)から多大なご教示いただいた。

【事務局からのお知らせ】

二〇〇八年一月二四日、八重山歴史研究会二代会長である森田孫榮氏が逝去されました。たいへん悲しい出来事でしたが、森田氏が先導してくれたこの会の活動を、今後も繋げていくため、一二月の定例会は臨時総会に変更し、次のことを話し合い、決定しました。

1. 役員改選について
会 長…崎山 直
副会長…石垣久雄
事務局・会計…島袋綾野
2. 研究会誌について

①投稿者
今回は、基本的に発表経験がある方を優先する。ただし、発表経験はないが、研究会に参加していただいている方には、研究会に対する思いなどを書いていただき、会誌作りにも積極的に参加していただく。

②内容
会報の内容をそのまま載せるのではなく、加筆修正し、原稿の形で提出すること。また、歴代会長に関する紹介文のようなものや、森田孫榮先生への追悼文も掲載する。

③原稿締切

二〇〇九年二月末日までに、島袋か飯田まで提出。
※最終取りまとめは島袋です。

④発刊

二〇〇九年四月発刊を目指す。
皆さん、発刊目標期日指して、頑張りましょう！















